

## 寸心先生日記抄

## ○明治三十五年（承前）

- 五月一日 午前九時出校。フリードレンデルへ爲替金を送る。午後教官會議あり。
- 夜杉森君を訪ふ。
- 五月二日 午前八時出校。午後杉森君の宅に於てカーライルをよむ。
- 夜杉森君と共に北條先生を訪ひ舎監辭退の事を話す。
- 五月三日 午前考ふ。
- 午後田部、森内二君來り共に散歩す。
- 夜寄宿舎に宿しイウン・ゼ・ポールをよむ。
- 五月四日 此日天氣清朗。八時頃より大野のボート會に趣く。六時終る。
- 夜三々塾に於て茶話會を開く。余、堀の外北條、杉森來會。二時頃終る。
- 五月五日 此日十一時まで眠る。午後も何事もなさず。夜杉森君來り、校長の求により共に二部會に趣き、話をなす。
- 五月六日 午前八時出校。午後主幹會議あり。二部代表者を杉森君の宅に招き話す所あり。
- 夜伊佐、笠井、小林來訪。八時より時習寮の選手慰勞會に趣く。
- 五月七日 午前九時出校。清水へ金八圓五十錢をかす。午後フアウストをよむ。
- 五月八日 午前九時出校。午後校長教官一同を集めて轉任の件を話す。
- 丸善へ送金。安江へ手紙を出す。
- 五月九日 午前八時出校。午後八波君と共に二部の件につき起草。
- 五月十日 此日朝より出校。十二時三橋、佐和、竹内をあつめて記事を作る。三時半第二公認下宿にて撮影。
- 夕より金石の松葉樓にて山口會を催ふす。來會者北條、土井〔以下名を略す〕

五月十一日 午前七時半金石を發し歸宅、直に時習寮にゆく。

午後杉森宅に一部二部の生徒を招き三橋、稻垣をして謝罪せしむ。

夜時習寮に於て大茶話會を開く。兼て校長及び卒業生の送別會を催ふす。

五月十二日 午前八時出校。三橋を呼び投書の件を決し、中月君に托して北國新聞社に投ず。これにて此件終結。

五月十三日 [略]

五月十四日 午前九時出校。午後フアウストを休む。

午後三部三年、英法三年及び加能同志會撮影。主幹會議。

堀内君と三々塾にて相談、晚食。

五月十五日 午前九時出校。午後三時より加能同志會及一日會の北條先生送別會に趣く。

夜十時より北條先生を訪ふ。

得能、藤岡、宇野より來簡。

五月十六日 [略]

五月十七日 午前入場。草文。

午後一時至誠堂に於て北條校長の送別會あり。それ

より森内、藤井二君と田部君の宅に會して話す。夜大茶話會あり。終つて北條氏より一部、二部の代表者及び時習寮室長、副室長に話す所あり。

五月十八日 [略]

五月十九日 午前八時出校。午後停車場にて北條先生を見送る。

を見送る。

五月二十日 午前八時出校。午後主幹會議あり。新校長來りて始めての會議あり。

五月二十一日 午前九時出校。午後フアウストをよむ。

夜杉森君と同途、新校長を訪ふて合監辭職の意を述べ。

山本來る。余煙草によみて話す能はず。

五月二十二日 午前九時出校。午後カーライルの會談あり。

五月二十三、二十四日 [略]

五月二十五日 午前五時出發。寮生二十餘名と倉ヶ岳

に登る。一時頃歸宅。晴天にて心地よし。

午後眠。夜三々塾生徒及び山本來る。

五月二十六日 午前八時出校。午後及夜在宅考究。

五月二十七日 [略]

五月二十八日 午前九時出校。午後フアウストをよむ。

夜新校長の招待にて金谷館にゆく。  
五月二十九日 午前九時出校。午後田部君の宅にて英  
語會讀あり。

石川君來る。不在。得能來る。

五月三十日 午前校長より舍監留任の話あり。

午後魚住の件につき會議あり。夜中野君を訪ふ。

五月三十一日 [略]

六月一日 Kant の Urteilskraft をよみ始む。午後清  
水清來る。夜石川縣學生の一日會に越く(本多宅)。

六月二日、三日 [略]

六月四日 午前九時出勤。午後フアウストをよむ。こ  
れにて來學年まで休む。夜讀書。

六月五日 午前九時出校。午後寮生をあつめて室長選  
舉につき話す所あり。

夜田部の宅にゆき森内と會して十一時まで話す。つ  
まらぬ話をなせり。

六月六日 [略]

六月七日 午前在宅妄想。午後寄宿寮にゆく。選挙結  
果をきくと憤慨措く能はず。

何事もなさず。

六月八日 午前吉村と代りて歸宅。午後田部君の宅に

て水滸傳をよむ。終りて散歩。夜徳田來る。  
終日不快。而も夜坐禪、精神壯快。

六月九日——十一日 [略]

六月十二日 午前九時出校。午後田部君方にてカー  
イルの會讀あり。

それより時習寮にゆき室長選挙につき話す所あり。

六月十三日——十八日 [略]

六月十九日 此日余は三年生の倫理の試験をなす。午  
後角田君來訪。それからカーイルの會に越く。

六月二十日 此日出校せず。午後五時より教育俱樂部  
の茶話會にゆく。久しぶりでトランプと將棋をなす。  
皆勝ちたるも可笑。

三竹君久しぶりにて來訪。

六月二十一日 午前永井君の試験の助をなす。午後懲  
罰審査會あり、余甚〔だ〕不満を感んず。

時習寮に宿す。十六夜の月。獨り運動場に佇立する  
事數刻。

六月二十二日 午前九時吉村と代りて歸宅。渡邊君來  
る、不會。其外誰か來ると云ふ。後にてきけば田部

ボートに行んかとして誘ひたるなりと云ふ。

六月二十三日——六月二十五日 [略、學年試験のこと等]

六月二十六日 午前文二年の論理點附終る。午後堀君

より借りし Jane Eyre をよむ。〔以下略〕

六月二十七日 午前 Jane Eyre をよむ。午後松井專

門學局長來校につき出校す。

千代、浦井來る。高橋俊英來る。

六月二十八日 午前 Jane Eyre をよむ。午後三年生

の判定會あり。夜時習寮に宿す。小茶話會を催うす。

午前秋月、外垣來る。伊佐來る。

六月二十九日 〔略〕

六月三十日 午前ゼーン・エーアをよむ。それより之

を携へて堀君を訪ふ。午後在宅。夜森田と田部を訪

ふ、林先に在り。十一時半歸宅。

七月一日 午前八時出校。九時半より卒業式あり。右

終りて杉森、堀二君の送別會あり。右了りて木間君

等とテニス黨を作り一回を催ふす。

夜一日會に趣く。夜十時頃外垣來る。

七月二日 午前七時頃角尾來る。九時頃伊佐、高橋來

る。解良、上野、道坂來る。午後宮北、福田來る。

四時よりテニスにゆく。

夜林君を訪ふ。十二時過入寐。

七月三日 午前何だかねむたくて心地あしく何事もな

さず。森岡(京)來る。

午後杉森、堀二君を停車場に送る。それよりテニス

にゆく。夜洗心庵に三竹を訪ふ。

清水清來る。

七月四日、六日 〔略〕

七月七日 午後より一二年級及落の判定會あり。

夜校長を訪ふて帽子の件を活す。

松山の件につき島木へ手紙を出す。

七月八日 午後より一二年生及落の判定會及び特待生

撰定會あり。

七月九日 夜中僕氏を訪ふ。

午前は出校、學生課の仕事をなす。午前田部を訪ふ。

白石來る。

七月十日 夜加能同志會の卒業生送別會あり金谷館に

ゆく。

午前三竹君來訪。

山崎より額面を送り來る。

七月十一日、十二日 〔略〕

七月十三日 此朝 Jane Eyre をよみ了る。

此日雨ふり河北にゆかず。夜田部來る。

七月十四日 降雨烈し。家にありて書籍の仕末をなす。

七月十五日 降雨烈し。どこか汽車不通となりたりと

云ふ。

午前出校。それより森田君の家に遊ぶ。午後山田氏

を訪ふ。

七月十六日 雨尙未だやまず。

午前林君を訪ひJane EyreをかへLes Miserables

をかる。

開發來る。

七月十七日 午前曇り居るにより出立せず。午後學校

にゆきテニスをなす。歸途(Goldy)を買ひ、歸りて

よむ。

七月十八日 午前十一時出立。河北にゆき長樂寺に至

り暮參。夜山村方に宿す。

七月十九日 午前山村方を出て宇野氣小學校を參觀。

林方に至り晝飯を喫し、三時半の汽車にて歸澤。

村田來る。

七月二十日 午前櫻次郎方にゆく。午後森内君と三宅

先生を訪ふ。夜大田君を訪ふ、不逢。

七月二十一日 りやくもんしよ、ろくようしよ。

午前大田君來訪。久しぶりにて談話不盡。

學校より呼出せられ舍監を免する辭令を渡さる。此

日にて舍監事務全く關係絶つ。

七月二十二日 午前四時出立。午後三時頃京都得田に

着す。

夕に山本を訪ふ、不在。建仁寺にゆき稻葉君を訪ひ、

これも久しぶりにて快談。

十一時頃歸り得田に宿す。

七月二十三日 此日大に雨ふる。午前得田にあり美術

講話と云ふ書をよむ。面白し。

午後山本君來訪。談話夜に入りて去る。

七月二十四日 午前九時頃京都を發し、午後二時和歌

山に着し、秋月耕月寺に至る。三竹君あり。和尚名

は等濟と云ひ雪門和尚の友なりとて面白き僧——閑

雅にて樂し。

家へ端書を出す。

七月二十五日 午前何事もなさず。

夕に雪門和尚の招により道律(じちりつ)に至り晚餐の馳走をう

く。

夜雪門和尚、三竹君と和歌山の市を散歩す。

桑原、石川へ端書を出す。

七月二十六日 此日參せず。夜逢坂來る。

七月二十七日 夜參。

七月二十八日 朝參。

七月二十九日 朝參。桑原政榮來る。

七月三十日 不參。

毛利より手紙來る。長屋へ手紙を出す。

日前神社の祭禮なり。

七月三十一日 朝參。

近松の宵庚申及び出世瀧徳。

グリル・パルチェル氏サツボ。

八月一日 朝參。此夜蒸暑し。

八月二日 不參。逢坂神戸へゆく。

森の「Technik des Drinnus」〔此語に枠を附す、或は備

忘のためか〕

雨ふる。

八月三日 朝參。雨ふる。

尊徳翁の記事〔枠を附す〕

逢坂へ陶器を送る〔同前〕

八月四日 不參。雨ふる。

午後四時頃雪門老師來らる、談話。九時頃去らる。

老師兩三日中に伊豆地方へ出立せられる由。

櫻巖經 水野〔枠を附す〕

碧岩集 林銑太郎〔同前〕

寸心先生日記抄

八月五日 朝參。雨しきりにふる、途あし。

汝いつも優柔怠惰、此の如き何時か予期あらん。

家より安達の事につき端書來る。七尾にゆくと云ふ。

逢坂より端書來る。

八月六日 不參。晩に雪門老師より招かれウダンの馳

走をうく。

八月七日 不參。此朝三竹君透過せりとして威張りて歸

る。

起信論 エンケル〔此語に枠を附す〕

雨ふる。

明石より手紙來る。

汝を迷すものは思慮なり。

八月八日 朝參。無字と隻手と替へらる。

午前和歌の浦より紀三井寺の方を廻りて歸宅。

午後寺にあり。

夜桑原と田井瀬まで散歩。

八月九日 午前五時耕月寺を出で田井瀬より汽車にて

名倉に至る、午前八時。それより徒歩にて高野山に

登り、山内成慶院にて晝飯。午後四時名倉に歸り汽

車にて奈良に至る。夜十時過桑原方に宿す。途に金

剛山下をすぐ。

八月十日 午前桑原と笠置山に遊び、山下の温泉に浴す。午後五時頃桑原方に歸宅。

風ふく  
朝遊笠置夕南都

千歳興亡兩眼中

半夜感多夢未結

雨聲蕭々風□窓

八月十一日 午前奈良博物館を見る。午後法隆寺を見る、古色蒼然。

此日少しく雨ふる。

三笠山月に昔を忍びけりかの霽淋し秋の夕暮

仲賢が唐に見し月影を千年の後の今日も見るかな

八月十二日 午前山岸來訪。桑原、山岸と新薬師寺を見る。

見る。

午後汽車にて京都に至り、得田方に至り夕餐を喫し

それより稲葉君を訪ひ談話、稲葉君方に宿す。

兩三日前稲葉君方に男子出生。

八月十四日 午前稲葉君と眞宗中學を見る。

午後妙心寺に至り虎關老師を見舞ふ。植村君及び知己の雲納に逢ふ。歸路岡本を訪ふ。

已の雲納に逢ふ。歸路岡本を訪ふ。

八月十四日 午前六時頃より山田一家及び得田主人、

文と比叡山に登る。白河よりす。歸路は坂本に下り唐崎の松を見、大津に至り三井寺を覽、それよりインクラインにて歸る。

四明峯より眺望頗るよし。

根本中堂も莊嚴なり。

八月十五日 午前五時得田方を發し汽車にて歸宅。

夜森内君を訪ふ。

岡本、伊佐へ手紙を出す。

八月十六日、十七日 [略]

八月十八日 午前學校にゆき書籍をかる。

午後三宅、藤井二君來訪。

夜太陽をよむ。

大田より來翰。

八月十九日 午前中目を訪ふ。午後晝眠。四時より本間、竹田二君とテニスを遊ぶ。

夜三竹君を訪ふ。月色最も可なり。

桑原へ手紙を書し送金。

八月二十日 昨夜眠る能はず。

午前ティチニエルをよむ。秋月來る。

午後睡眠。テニス。

八月二十一日 午前心理書をよみ、學校にゆき理書を

かる。

午後讀書。南來る。公證人を訪ふ。

夜、憑次郎、渡邊、來る。

八月二十二日 午前、午後在宅讀書。午後雨ふる。

八月二十三日 午前川村幸一及び河合君來る。

午後讀書。今日は天氣よし。

俵給を受取る、預ける。

山本より手紙來り、安達へ手紙を出す。

テニス遊び、清朗なる天氣に秋めきて氣清く、極めて心地よし。

八月二十四日 午前九時公證人小川氏方にて渡邊の公正

證書を作る。

午後讀書。夕テニス。夜秋月來る。

眠る能はず。月芽えて心地清なり。

八月二十五日 午前洗心庵を訪ふ。雪門老師未だ歸

れず。

午後讀書。夕テニス。夜讀書。

秋月不來、九時過來る。

八月二十七日 午前武藤の家にゆく。午後宇野來る。

夕テニス。

七時よりウォールフアート方にゆき晚餐の饗應をう

寸心先生日記抄

く。中目、村田と共に。

八月二十八日 午前安達來り、石川來り、長谷川來る。

午後石川君がかしくれたる峨山逸話をよむ。其後ナ

ツブ。

夕にテニス。長屋に逢ふ。

夜近松をよむ。

八月二十九日 午前むた／＼にすぐす。

午後青蘆集をかりてよむ。

夜秋月と友田君來る。友田君とは久しぶりにて逢ひたるなり。

八月三十日 此日あつくして何事もなさず、ねてばかり居れり。

夕にテニス。夜森内君を訪ふ。驟雨あり。

八月三十一日 雨ふる。夜中僕、森内、林來る。

雨はげし。

朝遊等置夕南都

千歳興亡兩眼中

歸路山頭月似眉

雪山堂裡坐清風

〔後二句を消して次の如く改めあり〕

歸路原頭月似眉

人間得失付清風

〔八月欄の最後の頁に左の如く書す〕

食ヒ眠リ子孫ヲ遺ス事ハ動物モ尙之ヲ能クス。人生豈此ノ如ク無意義ニテ終ルベケンヤ。人ハ一生ノ力ヲ以テ此ノ靈性ノ美ヲ發揮サゼルベカラズ。汝ガ肉欲ト無用ノ交際ニ費ス暇ヲ以テ修養〔ト〕學問トニ盡セ。

九月一日 午前學校にゆく。忿怒の情に堪えず。

午後在宅。夜本多邸の一日會にゆく。雨はげし。

九月二日 午前考究。十時頃學校にゆかんとして途に藤井、田部、森内に逢ひ、共に林君の宅に到り朝顔を見る。

午後ナツプ。起草。

夜起草。

九月三日 午前一寸と學校にゆきハールン〔Henry〕

の書をかり來りてよむ。面白し。

午後ナツプ。夕テニス。

夜何事もなさず。

雪門和尙へ手紙を出す。

九月四日 午前無盡燈の紀平の文をよみ大に奮發す。

午後五時より學校に於て明石君の送別會あり。

九月五日 午前學校にゆき校長に逢ふ。倫理主任依囑の件、及び三竹君につき密告書を示さる。

〔以下略〕

九月六日 午前學校にゆく。エルザレムをよむ。

午後田部、森内、林三君と金石にゆき海水を浴ぶ。

九月七日 午前雪門和尙を訪ひ、歸途中僕氏を訪ふて書を見る。

午後秋月、川村來る。秋月は明日出立すと云ふ。夕に子供を携へて才水の邊に散歩す。

九月八日 今日は暑氣最烈し、百庚に達すと云ふ。午前一寸學校にゆく。

夕に子供を携へて懋次郎方に遊ぶ。夜懋次郎來る。東京へ轉任云々につき話す所なり。

夜眠る能はず。

九月九日 午前八時より學校にて會議あり。

午後ソースタ。夕にテニス。

逢坂來る。奥山健太郎へ手紙を出す。

九月十日 午前在宅。ノートを作る。

午後森田(秀)(?)、赤塚來る。大和の山本嘉三郎始て來る。

夕テニス。

太陽をよむ。

九月十一日 午前八時出校。至誠堂に於て入學式、始

業式あり。

午後バイブルをよむ。

夕テニス。夜憑次郎来る。

奥山へ手紙を出す。

九月十二日 本日より授業始まる。午後検定員の會議

あり。

夕テニス。夜陸村、大野、加藤来る。

ガラストウラをよみ始む。

九月十三日 午前出校。午後ナップ。夜洗心庵にゆく。

九月十四日 午前在宅。午後桑原を伴ひウオープア

トを訪ひ、それより北條方による。

夕テニス。夜庄内中學の卒業生五六人来る。

九月十五日 午前在宅。午後出校。歸途に三々塾によ

る。

夕テニス。得能健吉来る。

九月十六日 午前出校。午後三時より獨逸會にて金谷

松葉樓にゆく。明月に乗じて歸宅、九時頃。

九月十七日 午前出校。

九月十八日 午前出校。午後及夜草文。

九月十九日 午前出校。午後四時より三竹君を訪ひ、

共に洗心庵に到り、雪門老師と觀月の宴を開く。石

川君も來會。十二時過歸宅。

九月二十日 午前出校。午後時習寮の宣誓式あり。つ

づきて小茶話會あり。夜洗心庵にゆく。

九月二十一日 午前八時洗心庵にゆき提唱をきく。

午後田部君来る。河合君を伴ふて學校にゆきテニス

を遊ぶ。夕に至る。

外彦病氣。

九月二十二日 午前檢定試験の爲めの出校。余忘れ居

て遅刻す。

午後テニス。夜關崎及び久保田来る。

フアウストをよむ。

九月二十三日 午前出校。午後テニス。

余つまらぬ事に怒る。

夕に逢坂等来る。吉崎来る。

文部省の慰勞會あり金谷館にゆく。

九月二十四日 午前在宅草文。午後テニス。夜寺本來

る。此日得田氏來宿。

九月二十五日 午前出校。午後フアウスト會をひらき

後にテニスを遊ぶ。

暮に大野、加藤、下野来る。

九月二十六日 午前出校。午後教官會談あり。

夜考究。

九月二十七日 午前出校。午後睡眠、ゴルフをよむ。

夜洗心庵にゆき打坐。

姉来る。

九月二十八日 午前洗心庵にゆき提唱をきく。午後ナ

ツテ。

夜草文。

九月二十九日 午前草文。少しく風ひき齒痛をなやむ。

午後學校にゆきテニスをなす。歸宅後齒痛はげし。

夜草文。

明日より斷然菓子を禁す。

終日終夜拈定。

九月三十日 午前出校。病氣にて心地あしかりしが強

いて出校す。

午後禪學無一物修行をよみ大に感憤打坐す。

菓子を食はず。

〔九月謝の最後の頁に左の語を書す〕

勇猛の衆生は成佛一念にあり、怠惰の衆生は涅槃

三祇に互る。

慈明感憤錐を以て股を刺す。

十月一日 午前出校。本日は病氣よし。午後テニス。

夜讀書。川村来る。

菓子を食はず。

夜眠る事少し。

十月二日 午前出校。午後ファウスト會あり。第一部

を讀了し、これにてファウストをやむ。

夕にテニス。憑次郎来る。

菓子を食はず。

十月三日 午前出校。附屬にゆく。河村不在、月曜に

歸ると云ふ。

午後三宅氏来る。姉来る、不逢。

菓子を食はず。されども菓物を食す。明日より食時

の外何物も食せざるべし。

今日は打坐を止む。

大薄志弱行〔大字にて書す〕

十月四日 午前出校。午後フリドレンデルへ送金。

午後より夜に入りて打坐。公園(石上)に坐す。

十月五日 午前提唱をきく。午後横井、藤澤、森内來り、何事もなさず。

夜考究。

菓物を食す。されども明日より(食後の)外嚴禁す。斷じて行ふ。

堀、秋月、笠井より來簡。

十月六日 午前考究。午後學校にゆく。テニス。

竹風氏の小説をよむ。

夜鹽田來る。打坐。

十月七日 午前出校。午後登張へ手紙を出す。姉來る。

今日は粟を食ふ。

十月八日 午前出校。午後はテニスとフットボール。

夜考究。

山村病氣。

十月九日 午前出校。午後考究。夕に豐次郎來る。夜

讀書。

根本來り亡父の爲に讀經。

人生を本として學問すべし。

哲學文學の關係

ノートリンク [Materlink] をよむ。

寸心先生日記抄

十月十日 午前出校。午後ダンテをよむ。テニス。天氣よし。

十月十一日 午前出校。此日山村胸膜炎にて大河原病院に入る。

院に入る。

午後吉崎來る。夜洗心庵にゆく。

十月十二日 午前角田來る。ダンテをよむ。

午後洗心庵にゆき提唱をきく。夜三竹君を訪ふ。

余万事不快に堪えず。

十月十三日 午前考究。午後出校、テニス。夜考究。

得能及び河村へ手紙を送る。

十月十四日 午前出校。午後及夜考究。

午前四時より起きて打坐。

十月十五日 午前出校。午後スタウトをよむ。

夜得能來る。

十月十六日 午前出校。午後ダンテ會あり。

テニス。

夜時習寮の大茶話會あり、十一時頃終る。

十月十七日 午前九時實口教會にて道友會あり。雪門

老師毒語心經を講ぜらる。

午後ナツプ。

此日はダンテをよみ、心理の草稿を作る。

十月十八日 午前出校。午後、夜何にもなさず。大に雨ふる。

十月十九日 此日より洗心庵に入る。

十月二十五日 此日洗心庵を出づ。

十月二十六日 午前三竹、渡邊二君來る。

午後及夜洗心庵にゆく。

十月二十七日 午前讀書。午後學校にゆく。テニス。

夜洗心庵にゆく。老師と話して歸る。

山本より手紙來る。

十月二十八日 午前出校。午後大拙への手紙を草す。

本日大拙より久しぶりにて面白き手紙來る。

大拙へ金十圓送る。

たのもし六〇にてとる。

山本へ手紙を出す。

夜洗心庵にゆく。

十月二十九日 午前出校。午後讀書。

十一月一日 〔略〕

十一月二日 午前九時道友會にゆく。森成來る。

午後洗心庵にゆく。夜坐禪。明朝老師和歌山へ出發

せらるゝにより八時頃に談話。

上田へ送金。

十一月三日 午前七時出校、拜賀式あり。終りてテニス。

正午措行社にゆく。歸路田部方による。來會者は林、

森内。

文鳳の畫を見る。

Sonia Kovalevsky 女の自傳をかる。

十一月四日 午前八時出校。此日授業をやめ運動會あり。終りて運動場にて祝賀會を開く。

十一月五日、六日 〔略〕

十一月七日 午前出校。午後ダンテ會あり。終りてテニス。

夜寺本來る。

り。

Yieldo は四時の睡眠と良消化を以て大業をなせ

り。

間食すべからず。

十一月八日 午前出校。午後大聖寺山に級會を催ふす。

午後五時頃より三々塾に於て茶話會を開く。水葦、

田部、三竹、石川等來會。一時過歸宅。

十一月九日——十二日 〔略〕

十一月十三日 午前出校。午後在宅。

十一月十三日 午前出校。午後在宅。

藤井氏より正岡氏の隨筆をかりてよむ。

十一月十四日 午前出校。午後ダンヂ會あり。夜水菫

君より即興詩人をかりてよむ。

十一月十五日 午前出校。雨ふる。

午後即興詩人をよみ終る。藤井君を訪ふ。

夜惣次郎來る。

十一月十六日 午前、午後、夜住宅。考へてもよき考

出でず。馬鹿くし。

十一月十七日 午前も考ふ。入湯。午後出校。テニス。

フットボールをみる。

此頃大に打失く〔大字にて書す〕

十一月十八日、十九日 〔略〕

十一月二十日 午前出校。午後掃除をなし、髪を切り、

知本報恩論をかき終り、夜ウントをよむ。

十一月二十一日 午前出校。午後ダンヂ會あり。

夜秋月、白石來る。

十一月二十二日 午前出校。午後柔道の紅白勝負あり。

此日法事。

十一月二十三日 午前藤井君來訪。午後山にゆく。

夜藤井君よりかりたる子規言行録をよむ。大に慚愧す。

十一月二十四日 午前在宅。つまらぬ事に怒れり。

午後出校。テニス。

歸途原君を長町六番丁に訪ふ。アレキサングーをか

る。

十一月二十五日 午前出校。午後在宅。

夜吉崎、辻來り、日課を缺く。

十一月二十六日 午前出校。午後在宅。

夜即興詩人の下巻をよむ。

十一月二十七日 午前出校。午後即興詩人下巻をよみ

了る。

萬年草をよむ。

得田より病氣回復の端書來る。

十一月二十八日 午前出校。午後ダンヂ會あり。終り

て長屋、水葦二君と田邊君方にゆき、ピンポンを遊

ぶ。

十一月二十九日 午前出校。午後在宅。

雪門和尚より手紙來る。

〔十一月纏の最後の頁に左の如く書す〕

打坐 毎夜九時——十一時

讀書 毎夜六時——九時

月曜午前、日曜午前

講義草稿  
火、土午後

木 午後讀書、散步

日 午後打坐、夜讀書

十二月一日 午前在宅。久しぶりにて西田勇來訪。

午後出校。テニス。三時より本多邸にて一日會あり。

來會者吉村、久田、中野、池邊及生徒二十餘名。晩

餐をなす。

十二月二日 〔略〕

十二月三日 午前出校。午後在宅。夜石川君と三竹君

を訪ふ。

Abi 〔特大に書す〕

老師へ草稿を送る。

十二月四日 〔略〕

十二月五日 午前出校。午後ダンテ會あり。それより

田部君方にてピンポンを遊ぶ。

十二月六日 午前出校。午後打坐。

十二月七日 午前在宅。午後子規言行録をよむ。

それよりハピランドを訪ふ。歸路三竹、渡邊に逢ひ

共に散歩す。夜在宅。

西田勇より寫眞一葉送り來る。

十二月八日 午前在宅。午後出校。テニス。それより

森内君を訪ふ。夜在宅。

愚次郎來る。

南江堂より桑原の書を送り來る。

十二月九日、十日 〔略〕

十二月十一日 午前出校。午後在宅。夜早く眠る。作

夜眠る能はざりしため。

十二月十二日 午前出校。午後ダンテ會あり。

夜上田敏のダンテをよむ。

十二月十三日、十四日 〔略〕

十二月十五日 午前在宅。太陽をよむ。午後ハイネを

よむ。

十二月十六日 〔略〕

十二月十七日 午前學校にゆき問題をする。

午後好天氣により、やよひ、誰を携へて金石にゆく。

十二月十八日 午前雨ふる。學校にゆく。議會停會の

新聞を見る。

十二月十九日 〔略〕

十二月二十日 午前出校。二部三部獨譯の試験。午後

贈付をなす。

〔最後の表紙裏にペン字にて左の如く書す〕

參。禪。以明大道、學。問。以開眞智  
以道爲體、以學問爲四肢

朝 靜坐 一時間  
夜 考究 二時間  
讀書

一、生、下、級、の、一、教、師、に、甘、ん、じ、て、厚、く、道、を、養、ひ、深、く、學、を、研、  
む、斷、じ、て、餘、事、を、顧、み、ず、(多く成さんと欲せ)  
事務などするものでない。

名利の念是吾心を亂し吾事を妨ぐるの仇敵、道もこれ  
が爲に成らず、學もこれが爲に淺し。急がば廻れ、功  
を成に急なる者は大事を成す能はず

大丈夫事を成す唯自己の獨力之れ恃む。決して他人の  
力をからず便宜の地位を求めず

眞に道に盡し學に務めんと欲せば一身一家の利害他人  
の情懷むら／＼起りて吾心を亂し惡魔の淵に引き入れ  
んとす。此時大に奮勵すべし。天地の間道により貴く

寸心先生日記抄

道より大なるものなし。區々一身一家一校一國之が爲  
に局促するに足らんや

深く藏して猥に動かす。周囲の出來事にかれこれ考ふ  
る様にては大事を成す能はず

専門の書は精讀熟考、其外博覽以て見識を廣くす。外  
國語は英獨二語にかぎる

一月二十日

蕃山の業は藤樹より出づ〔鉛筆にて書す〕